

11.地球温暖化が問題なのは乾燥化につながり、コケ類に悪影響を与えるとされているからである	2.50	.93	3.25	1.04
12.紫外線が増加するとオオサンショウウオの卵が死滅する可能性があるため、オゾン層は守るべきである	3.78	1.48	3.38	1.19
13.きれいな水はそれ自体価値のあるものだから汚さないようにしたい	4.33	1.41	4.38	.92
14.リサイクルのメリットはお金を節約できることである	2.44	1.23	2.75	1.39
15.健康な生活を送るためにはきれいな水が必要である	4.89	.33	4.75	.71
16.地球温暖化は私には関係ない*	1.67	1.33	1.25	.71
17.紫外線が増加すると光合成が困難になってブナやミズナラの原生林に悪影響を与えるため、オゾン層は守るべきである	4.22	.67	4.13	.99
18.酸性雨の被害はおおげさに言われている*	1.99	.60	2.13	1.36
19.リサイクルのメリットはゴミの埋め立て地を減らし、環境への影響を抑えられることである	4.11	1.05	4.13	.83
20.オゾン層を守るために何かしようとは思わない*	2.00	.87	1.63	.74
21.空き缶のリサイクルは原料から缶を作る時に比べてエネルギーを節約できるから進めるべきだ	4.00	1.22	4.00	1.07
22.地球温暖化が問題なのは砂漠化につながり、耕地が減少するからである	4.44	.52	3.75	1.03
23.私は酸性雨を気にしていない*	1.99	1.05	1.50	.76
24.オゾン層破壊は私には関係ない*	1.67	1.33	1.29	.49
25.大気汚染が問題なのは松やブナ・ミズナラの葉を傷つけ、枯れる原因となるからである	4.11	.93	4.00	1.07
26.ごみ問題は強調されすぎている*	1.78	1.32	1.38	.52
27.川の水が汚れると水道料金が上がるからきれいな水を守るべきだ	3.78	1.30	3.75	1.28
28.紫外線は人間にとって、皮膚がんが増加する原因となると言われているため、オゾン層は守るべきである	4.44	.73	4.88	.35
29.私が何かしたとしても地球温暖化防止に役立つとは思わない*	2.22	1.36	1.55	.53
30.鳥などが水面上に浮かぶゴミをえさと間違えて食べるのを防ぐために川や海をきれいにすべきだ	4.67	.50	5.00	.00

* APA (*のついている項目)は逆転前の値

表 3 環境講座の前後における環境的行動尺度の平均点・SD

項 目	講座前		講座後	
	平均点	SD	平均点	SD
1.自分用の割り箸を携帯して割り箸は使わないようにする	2.44	1.42	1.88	.99
2.電気をまめに消すなど省エネルギーに気を配る	3.00	1.22	3.25	.89
3.できるだけ再生紙を使うようにする	2.44	1.13	3.00	1.31
4.家の中に分別用のごみ箱を置いてごみを区別する	3.33	1.58	3.25	1.04
5.新聞雑誌は廃品回収に出す	4.00	1.58	3.25	1.04
6.衣類などを人に譲ってもらったり、バザーで購入したりする	3.33	1.12	2.75	0.89
7.牛乳パックの回収に参加する	3.22	1.86	3.00	1.20
8.不要品をリサイクルやバザーに出す	2.56	1.51	2.50	1.07
9.使い捨て容器を使った商品の購入や利用は控える	2.22	1.20	2.38	1.06
10.風呂の排水口にネットをかぶせて、毛髪などを取り除く	2.33	1.73	2.57	1.13
11.電化製品や家具が壊れた時にできるだけ捨てないで修理する	3.33	1.41	3.33	.87
12.リサイクルやバザーを利用する	3.00	1.41	2.78	.67
13.買い物をする時に買い物かごや袋を持参する	2.67	1.41	2.67	.71

* APA (*のついている項目)は逆転前の値



クロソンとムテムカ

～四万十からのおくりもの

代表 竹本 伸

ここ数年、毎年夏になると「地球号」の事務局長である川口さんと一緒に、四万十川に行っている。もちろんカヌーをしにだ。昨年は川口さん、ホームテレビの酒井さん親子、それに私たち夫婦の5人で行った。娘は「二人で行って来れば。私はお祖母ちゃんのところにいるから。」というつれない返事で、ついに親は見放されてしまった。こんな風に育てたつもりはなかったのであるが、なかなか親の思うように子は育たないものである。

カヌーは数年前に川口さんに教えてもらった。正確に言うとかヌーの面白さを教えてもらった。川口さんの教え方はアバウトというか豪快というか、基本的なパドルワークと沈した時の対処の仕方を教えてくれるだけで、後はすぐに川にでる。実地で覚えるしかないというわけだ。実際のところ、何年も前のことであるが、初めてカヌーにトライした時、その前にビデオでしっかり予習していったのであるが、頭の中だけの予習は何の役にも立たなかった。スキーと同じで、(スキーの場合、転ぶのも楽しいし、転んで覚えるようなところがあると思うが)、沈するのも楽しいし、沈して覚えるものなのだ。その点でいうと、私は何年たっても楽しく学習を続けている。



昨年の四万十川は、私たち夫婦が行きだしてからはなぜかもっとも多い水量であった。いつもの江川崎の川原に立った時、例年がない水かさで音を立てんばかりに流れる川面を見て、ここより上流のいくつかの瀬はかなりの難所になっているだろうと推測せざるを得なかった。翌日は四万十川の中流域の中心であるこの江川崎から口屋内までを快適に下り、翌々日は上流に上がって大正町から江川崎の手前までを、しびれるような瀬に何度か突っ込みそして思い切り沈しながら、そして夫婦で罵声をあびせあいながら、下った。後から考えると、そして自分の腕を考えると、まあ無事で良かったというのが本音である。球磨川や長良川を何度も経験している川口さんにとっては鼻歌かもしれないが、私たちの乏しいカヌー経験の中では、今回の瀬はこれまでの中で最大の難所であった。同じところを前年も下

ったのであるが、(思えば娘と一緒に下ったのである)鼻歌とはいわないまでも、そんなに目を点にした記憶はないし、沈もしなかった。年により、時期により、極端にいうと日によって、川は表情を変えるものだということを知ることとなった。

酒井さんはというと、ほとんど初心者であるにもかかわらず、川口さんのゴムカヌーに乗ったせいもあって結構鼻歌だった。彼は、次は絶対にファルトボートに乗るべきである。カヌーの醍醐味はファルトでないと思われないよ、酒井さん。それにしてもそのゴムカヌーが、上記の瀬に突っ込んで波の頂上で木の葉のように揺れている時、前に座って寝ていた 子ちゃんは将来きっと大物になるであろう。

一日目の快適なカヌーツアーのお昼時、私たちがいつも昼休憩をしている沈下橋のたもとでいつものように食事をし、ビールもちょっと入っていい気持ちでいた時、対岸を猛スピードで走っていたタクシーが何を思ったか、橋を渡って私たちの前で急に止まった。出てきたのはいかにも都会からきましたというようなギャル二人で、カヌーの前で写真を撮らせてくれというのだ。四万十=カヌーという図式がたまらなかったのであろう。私たちにいわせれば乗らなければ面白さなんてわからないと思うのだが。しかし温厚な私たちは気軽に彼女たちの申し出を受け、その日一緒に下っていた田村さんにいたっては、サービス精神よろしくバックの風景にと写真を撮る瞬間に沈下橋からダイビングまでしてあげた。(田村さんとは以前機関誌にも投稿してもらっている高知在住の川口さんの親友である。彼についてはその人物像をゆっくり紹介したいところであるが、それには一つのコーナーを設けた方がいいくらいのページが必要なので、またの機会に譲る。)その彼女たちは、写真を取り終わると、江川崎何分発の列車に乗らないといけなからと、また猛スピードで去っていった。あの時間ではおそらく間に合わなかっただろうが、あの子たちにとってこの四万十はいったい何なんだろう。

